

2
3
2
=

人類が始めて原子爆弾の爆発を
うむった広島に近い竹原に集つ
私達科学者は、一年前のオ一回
學者京師會議の聲明の意義と内容
を再確認し、「キューバ以後の世
情勢」、「アジアの中の日本」
科学者の社会的責任」に関する
報告を中心として、三日間たわ
る討議を行つた。特に次にか
る諸君にたい

その一面に

五月

(一) 大量殺戮兵器による戦争抑止
 政策は、移動可能核ミサイル基地
 がある原子力潜水艦を主体とする
 核戦略をとりつゝあり、地球を覆
 う基地網とあいまつて、ますます
 危険な様相を呈してきた。世界各
 口のすべての人民が少数の政策決
 定者によつて人権にふれていゝ。

(二) 日本は運命ではなく、人間に
 よつて作られるものがある。

(三) 日本口憲法九条は平和的

も合する指針としてすすめるべきである。
(四) 口連憲章に東西兩陣營の融和をすすめる軍事プロパグの形成を期する。公約のある策動のあることと指摘し、その再審議を提議し、中華人民共和國の口連加盟の實現することと口連本来のあり方であることとを主張する。
(五) アジアに於ける緊張の根源は米合衆国と中華人民共和國との間が今なお敵対状態にあることである。世界平和のため著しい陸軍と空軍とを有する日本が核非武装の原則を貫き、一切の核兵器の持たざることを拒否することは、アジアに於ける核戦争の防止と久遠化を防止し、日本と世界の平和と安定とを保障するものである。
(六) 平和の創造に於ては、人文、社会、自然、金、分野の科学者の協力してその社会的責任を果すことと、さし通って必要である。さらに中華人民共和國をはじめアジア諸国の科学者の協力と、うる可成性も、科学の悪用を防ぐ力と倫理の

c091-006-005